



春の訪れが感じられる季節となりました。子供たちは舞う花粉もなんのその、毎日外遊びに励んでいます。学校と家庭が「いっしょに」を合言葉に、よりよく連携していけたらと思います。保護者の皆様と学校がよりよい関係で学び合うことにより、信頼関係が築かれていきます。子育てのパートナーとして、お子様の将来を共に支えていけるようお互いの立場を理解し合い、お子様のためによい方法をいっしょに考えてまいります。



東武宇都宮駅へ Go! での出来事

そよかぜ学級の児童は、自立活動という時間にコミュニケーションについて学んでいます。時間割では自立活動と銘打っていますが、どの子にも生きていくうえで必要なことを、その子の必要感にに応じて、多岐に渡って学ぶものです。学びをリアルな現実世界で生かせる場として、今年度は本校で「校外学習・東武宇都宮へ Go!」を企画しました。

まず、子供たちから行ってみたい場所についてアンケートをとり、現実的にみて本当に行ける場所なのか、何を目的に行くのか等をじっくりと納得のいくまで討論します。一連の流れが決まったら、お店のリサーチをし、おおよその金額を計算し、ロールプレイングで支払いや乗車等の予行練習をします。その成果を実践するとき、それが今回の「校外学習・東武宇都宮へ Go!」でした。

そよかぜ学級では「自立」することをテーマとしています。今年度は「教員は見守るスタンス・限界までは極力手や口を出さない・まずは自分でやってみよう」をモットーにしてみました。

子供は、自分で全て決めたことですから、途中で諦めたりすることはできません。もし壁に直面しても、自分でなんとかしなければなりません。予定や流れは完璧!ばっちり計画を立てました!もし予定と違うことが当日起きてしまったら、それはもう…大変なことになります。

しかし、現実にはハプニングがつきもの。予定と違うことが起きました。それは、餃子を食べるはずの店から「満員なので…無理です…」と入店を断られたのです。事前に電話で連絡をしていただけに、

まさに想定外の出来事。

さあ、子供はどうするのでしょうか!?

すると、ひとりの児童が「この近くに…確か、ぼくがずっと食べたかった餃子屋さんがあるはず!」…。すると奇跡的にその店が、なんと道を挟んで向こう側にあったのです。メニューもしっかり調べ、絶対に食べないと帰らない!とあんなにこだわっていた店を潔く諦め、子供たちはすぐに気持ちを切り替えて新しい道を進みました。結果的においしい肉汁たっぷりの餃子を別の店で美味しく食べて、購入してきたお土産をたっぷり抱えて学校に帰りました。

そして、帰るや否や、同じフロアの5・6年生の子供からの質問攻めスタートです。「そよかぜさん、いろんなところにおでかけできていいなあ♪今日はどこに行ってきたの?何を買ってきたの?えっ、バスに乗ったの?自分で買ってきたの?すごい!!」

さて、お店に入店を断られたとき、“臨機応変に”“柔軟に”状況を把握し、こだわりをゆるめて自分の気持ちに折り合いをつけることができた子供の姿に成長を実感しました。どんな子にもさまざまなこだわりがあると思います。こだわりを克服できたとき、新しいもう一人の自分を発見できます。それを目の当たりにすることができました。



子供には、それぞれの特性に合った学び方をする権利があります。お子さんの発達、感情のコントロールなど、その子なりの困り感に合わせた工夫のもとで、その子なりの取組ができ、お子さんが幸せに安心して学校生活を送ることができる、そんな

取組をそよかぜ学級では当たり前に取り入れています。

また来年度もいろいろと楽しい企画を考えていきたいと思っています。

かがやきルームは何をすることで？

『かがやきに行ってきます！』『いってらっしゃーい♪』

今日も廊下ですれ違う、かがやきルームに向かうお子さんに、いってらっしゃいをしました。かがやきルームに行くお子さんは、自尊心が確実に高まっていることが伝わってきます。少人数で学ぶことで、自己肯定感の高まりが見られ、自信につながっているようです。

ところで、かがやきルームは何をするところかご存じですか。特別支援教室(かがやきルーム)の設置と指導員の配置は、宇都宮市独自の事業として、その認知と活用はすっかり定着しています。かがやきルームで指導する内容は、学級担任や教科担任からの「今日はこの部分を／ここを教えて欲しい」とのオーダーを受け、現在学んでいる単元等のドリル・プリントや、同時刻に学級で行う授業内容が多いです。

本来かがやきルームは、学びにくさを補うための学習指導やソーシャルスキルトレーニング等を、個別や小集団指導の形態で行います。しかし、本校では個別・小集団による学習指導のみならず、自立活動に関連する活動をその子に応じて取り入れています。

授業中の教室にそーっとお邪魔してクラスの様子をみせて頂いております。何度か教室を訪れていると、『あっ、そよかぜの先生だー。こんにちは～！』、『また来たのー？わたあめ先生～♪』などと声をかけてくれるお子さんが増えました。廊下で会うと、『イタリアに住んでいたときは、毎日何を食べて生きていたんですか？(→美味しい野菜とピザとパスタですよ！)』『わたあめ先生、そよかぜ学級ってどこにあるんですか？』(→生活しているフロアが違うと意外と知らないかな。)'今日のお昼休み、ちょっとお邪魔してもいいですか？』、なんていう雑談もあり、そよかぜ学級の存在を認識してくれたことを嬉しく思っています。

教室で過ごしていて生きづらさや困難を抱えているお子さんはいらっしゃいませんか。おうちの方だけで抱えないでください。小さいことでも構いません。お子さんの能力や学校生活について心配なことがございましたらいつでもご連絡ください。担任をはじめとして学校一丸となって全力でお子さんを支えてまいります。

本年度の特別支援教育だよりは今号でおしまいになります。お読みいただきありがとうございました。また、機会がございましたら来年度からのおたよりもお手すきのときにお読みいただければ幸いです。

かがやきルームの利用については、校内支援委員会で検討・判断がなされます。その際に、その子が抱える困難さや課題、それを踏まえて指導の目標や方針・内容等が検討されます。それらをもとにその子に適した学習方法や学習活動等を考え、準備していきます。

授業の最後10分程度、お楽しみタイムを設けている場合、周囲からは「ただ遊ばせている」と誤解されたりすることもあります。しかし、全ての活動は、子供たちのニーズに合わせて、意図的に設定し、自立へ向けた学びにつながっているのです。

